弦楽合奏団

エテルニータ

第9回コンサート

Eternita
弦楽合奏団

とちぎ男女共同参画センター パルティホール

2012年7月8日(日) 午後2:00開演

プログラム

バッハ　ブランデンブルク協奏曲　第3番　ト長調　BWV.1048
J.S.Bach Brandenburg Concerto No.3 G-Dur BWV.1048

モーツァルト　ホルン協奏曲　第1番　ニ長調　KV.412/514
W.A.Mozart Horn Concerto No.1 D-Dur KV.412/514
for Horn & stringquartet

ホルン独奏　下田 太郎

休　憩

シューベルト　「死と乙女」（マーラー編）ニ短調　D.810
F.Schubert=G.Mahler "Death and the Maiden" d-moll D.810

プロフィール

ソリスト　下田　太郎

沖縄県生まれ。福岡工業大学附属高校、東京コンセルヴァトワール尚美(校名はいずれも当時)卒業。尚美学園ディプロマコースを首席で修了。第11回及び第14回日本管打楽器コンクール第三位。第67回日本音楽コンクール第三位。2008年～2010年、神奈川フィルハーモニー管弦楽団の契約団員を務めた。現在、尚美ミュージックカレッジにてホルン科及びオーケストラの講師。フリーランスの奏者として全国のオーケストラや吹奏楽団で首席を客演している。また、ナチュラルホルン奏者としても積極的に活動しており、オーケストラシンポシオンをはじめ多くの古楽オーケストラ団体で演奏している。オーケストラ・Mzimaの金管トレーナー。

指揮・ゲスト首席チェリスト　諸岡　範澄

国立音楽大学器楽科卒業。1993年ブルージュ国際古楽コンクールアンサンブル部門第一位受賞（Trio van Beethoven）。　バッハ・コレギウム・ジャパン、 P.ヘレヴェッヘ、A.ビルスマ、クイケン兄弟ら、内外の演奏家と数多くの演奏会、ＣＤレコーディングに参加。宗教曲、世俗曲を問わず声楽曲の通奏低音奏者としても豊かな経験を持つ。またモダン・チェロ奏者としてもソロ、室内楽等の分野で活躍する他、作曲も手掛ける。1997年指揮者としてデビューし、これまでハイドン、モーツァルト、シューマン等4枚のCDをリリース。1999年「第13回古楽コンクール・山梨」審査員を務める。2000年韓国国立ソウル芸術大学におけるバロック音楽セミナー講師として、また漢陽大学学生による「コレギウム・ムジクム・漢陽」の指導者として招かれ度々訪韓している。2007～08には西東京市主催企画「ベートーヴェンの学校」(校長・西原　稔)で音楽監督を務める。バロック・古典派にとどまらず、ロマン派から近・現代に至る幅広い指揮レパートリーを持ち、またプロ・アマチュアを問わず奏者の自主性を引き出す指導力にも定評がある。「東京五美術大学管弦楽団」「オーケストラ・ Mzima」「東京女子大学カレッジストリングス」指揮者。「ひたちなか楽友会」講師。「オーケストラ・シンポシオン」音楽監督。

曲目解説

バッハ「ブランデンブルク協奏曲 第３番 ト長調 BWV.1048」

バロック時代のコンチェルトの最高峰といわれている「ブランデンブルク協奏曲」は、ブランデンブルクの領主ルートヴィヒ候に捧げられたためこの名がついた。と言っても、実はそのために書き上げた新作ではなく、以前に書いたものの中から６曲を選び、セットとしたものである。

６曲ともすべて名曲で、特にチェンバロが大活躍する第５番が最も人気が高く、２本のブロックフレーテがかわいい第４番や、ヴァイオリンを省いたヴィオラ属のための渋い第６番も大変魅力ある作品だ。

献呈先のブランデンブルクでは一度も演奏された様子はなく、ルートヴィヒ候の死後、自筆譜は非常に安い値段で人手に渡り、さらにバッハの弟子たちの手を経てベルリンの国立図書館に収められた。

第３番は、弦楽器のみの編成で、いわゆる〈コンチェルト・グロッソ〉のスタイルで書かれているが、独奏部と合奏部の区別がなく、合奏群の中から各独奏が浮かびあがってくるという独特な形をとっている。

第１楽章　テンポの指示なし
第２楽章　アレグロ

両楽章とも生き生きした躍動するリズムをもつ爽快な音楽である。楽章と楽章の間に、アダージョと指示された２つの和音があり、おそらくこの部分で即興演奏がなされたと思われる。

なお、第１楽章はのちに管楽器をつけ加えて、カンタータ第 174 番のシンフォニアとして再利用された。

モーツァルト「ホルン協奏曲 第１番 ニ長調 K.412/514」

モーツァルト一家と親しい間柄にあった、ザルツブルグの宮廷楽団のホルン奏者ロイトゲープのために書かれた四曲のホルン協奏曲の中の一曲。ロイトゲープは後にウィーンに出て、チーズ店を経営しながら演奏活動を続けていたが、モーツァルトはそんなロイトゲープをいつもからかって楽しんでいた。

第１コンチェルトのスケッチ譜に残された「がんばれ、ロバ君～なんて調子っぱずれなんだ～哀れなやつ～やれやれ、もうたくさんだ」といったいたずら書きを始め、第２コンチェルトの自筆譜に書かれた「ろば、牡牛、間抜けなロイトゲープを憐れんで」といった献辞、さらに、青、赤、緑、黒のインクをごちゃ混ぜに使って書かれた第４コンチェルトの楽譜。

こういった一連の悪ふざけは、駄洒落、語呂合わせ、スカトロジーなどと共に、モーツァルトが特に親しい人達との間にかわした冗談の技法で、天才の児戯性が感じられとてもほほえましい。

このコンチェルトが、モーツァルトの手によって完成したのは第１楽章（K412）のみで、ロンドもスケッチしか残されていない。そのスケッチをもとにモーツァルトの死後、「レクイエム」の補筆完成で知られる弟子のジュスマイヤーが書きあげた。

第１楽章　アレグロ
第２楽章　アレグロ（ロンド）

どこかで聞いたことのあるような親しみやすいメロディーの第１楽章、いかにも狩猟ホルンを思わせる第２楽章のロンドと、作曲者と演奏家の関係を暗示しているような、明るく陽気で楽しさにあふれたコンチェルトと言えよう。

シューベルト「死と乙女」（マーラー編）

シューベルトは 20 才の時、歌曲「死と乙女」を書いた。少女を死の世界に誘い込もうとする死神といった筋書きで、同じシューベルトの歌曲「魔王」とよく似た内容である。27 才の時作曲を開始した「弦楽四重奏曲第 14 番」は、第２楽章にこの旋律を用いて作られたため「死と乙女」の名称が与えられ、彼の弦楽四重奏曲の中で最も有名なものとなった。

それから 80 年後の 1894 年、マーラーが弦楽合奏用に編曲、ハンブルク市立歌劇場のコンサートで彼自身の指揮で第２楽章のみを演奏。さらに全楽章の初演は 90 年後の 1984 年まで待たねばならない。

マーラーが編曲したといっても、原曲にはほとんど手を加えず、コントラバスを加えただけ、という作曲者のオリジナルを尊重した自然なアレンジである。マーラーは、ベートーヴェンの「弦楽四重奏曲第 11 番“セリオーソ”」も同じような編曲を行っている。

第１楽章　アレグロ
第２楽章　アンダンテ・コン・モート
第３楽章　アレグロ・モルト
第４楽章　プレスト

前にも述べた、死神の歩みを思わせる重々しいリズムを持った旋律を主題とする変奏曲の第２楽章が一番の聞き所。全体的に、尊敬するベートーヴェンの影響が強く表れており、緊張感あふれる終楽章などは、「ヴァイオリン・ソナタ第９番“クロイツェル”」にそっくりだ。

シューベルトは、ベートーヴェンの死んだ翌年、あとを追うようにわずか 31 才の若さで亡くなった。

（山田 栄二）

弦楽合奏団エテルニータ メンバープロフィール

ヴァイオリン

青柳 敬子
宇都宮短期大学卒業。
増田貴子、星野和夫、吉村成司、鈴木鎮一の各氏に師事。
才能教育研究会宇都宮支部ヴァイオリン科指導者。
スズキアンサンブル「弦」メンバー。

片山 淑子
国立音楽大学卒業。
在学中、故　久保田良作氏に師事。卒業後、ソロ、室内楽を浦川宣也氏に師事。アンサンブル「どるちぇ」を結成し小学校をはじめ道内各地にて演奏活動。1990年にリサイタルを行う。
札幌交響楽団に5年在籍。後進の指導にあたっている（札幌在住）。

川俣 洋子
国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。
岩本政蔵、井上武雄、鷲見健彰、鷲見四郎、石橋洋子、梅津南美子の各氏に師事。
室内楽を青木十良氏に師事。
フリーの演奏家としてオーケストラ、室内楽等で活動の他、後進の指導にあたっている。
アンサンブル・ブリランテメンバー。

小松崎 倫子
武蔵野音楽大学卒業。宇都宮大学大学院修了。
故 鈴木史子、吉村成司、萩原耕介の各氏に師事。
栃木県交響楽団団員。宇都宮市立陽東中学校教諭。

篠原 香乃子
武蔵野音楽大学卒業。
モダンヴァイオリンを、故 永岡国雄、吉村成司、星野和夫、掛谷洋三、桐山建志の各氏に、バロックヴァイオリンを桐山建志氏に師事。
後進の指導にあたる他、バロック・ヴァイオリンデュオ「Due Luce」等、フリーの奏者として活動中。

土屋 恵子
上野学園大学卒業。
増田貴子、吉村成司、竹内茂の各氏に師事。
上野学園ヴァイオリン教室講師を経て、現在自宅にて後進の指導にあたっている。

福富 恵子
宇都宮短期大学卒業。
吉村成司、鷲見健彰の各氏に師事。
柿の木幼稚園ヴァイオリン講師、後進の指導にあたっている。

山田 美津子
東京都立大学卒業。
ヴァイオリンを星野和夫氏に師事。

ヴィオラ

川沼 文夫
宇都宮短期大学、東京芸術大学別科卒業。
立花和夫、吉村成司、鷲見四郎、中塚良昭、鈴木鎮一、豊田耕兒の各氏に師事。
才能教育研究会宇都宮支部ヴァイオリン科指導者。
スズキアンサンブル「弦」メンバー

チェロ

荒川 育子
国立音楽大学卒業。
小野崎純氏に師事。後進の指導にあたっている。
室内合奏団、オーケストラ等でも活動中。

コントラバス

増山 一成
東京芸術大学卒業。ウィーン国立音楽大学に留学。
沖不可止、今村清一、江口朝彦、小野崎充、ルートヴィッヒ・シュトライヒャーの各氏に師事。
読売日本交響楽団コントラバス奏者、東京ハルモニア室内オーケストラ コントラバス奏者、宇都宮短期大学附属高校音楽科非常勤講師。

団友

ヴィオラ　中村 淑江（栃響）

エキストラ

ヴィオラ　諸岡 涼子
チェロ　玉川 克

エテルニータ顧問・解説

山田 栄二
1948年宇都宮市に生まれる。宇都宮短期大学作曲科卒業。
作曲を石黒脩三氏に師事。同短大と同附属高校の講師を務めた後、1984年から作曲、編曲活動に専念。
作品にオペラ「ゆきと鬼んべ」「殺生石物語」「歌法師蓮生」「那須野巻狩り」「小山物語」、オペレッタ「不思議の国のアリス」、室内楽曲「博物誌」「動物園の情景」「ファーブル昆虫記」、大正琴と語り手のための「手無し娘」など多数。
1999年県文化奨励賞受賞。

ステージマネージャー

小林俊夫（日フィル）